第６次山形県教育振興計画より

資料　２－１

基本方針Ⅳ 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

グローバル化が進む社会にあっては、様々な社会環境の変化に対応し、様々な人々と協働できる人材、新たな価値を主導・創造するような人材の育成が求められます。
このため、様々な分野に興味・関心を有する子どもの裾野を拡大するとともに、実践力を磨き、変化に対応し、社会で自立できる力を育成します。　　（　中　略　）
これらの取組みは、小・中・高・大の各段階における連続性・系統性を考慮し、体系的に推進します。

１　グローバル化に対応した英語教育の推進

【現状と課題】

グローバル化が加速する中で、山形県人そして日本人としての自覚や文化に対する深い理解を前提とし、異なる文化や生活習慣を持つ様々な国や地域の人々と共に生きる国際社会の一員として、自らの考えや意見を伝え、主体的に行動する態度や能力を育成することが求められています。

このため、我が国の伝統・文化・歴史への理解を深めるとともに、母国語である日本語の十分な習得を基盤として、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力の育成を進めていく必要があります。

（１）英語授業の改善・充実　　→　外国語フォローアップ事業

○　小・中・高等学校における指導モデルの開発・実践

（２）小・中・高・大学の連携　　→　小中高大連携推進プログラム（鶴岡モデル）

○　パイロット地区を指定して小・中・高等学校、さらには大学や研究機関との連携による英語教育のモデルとなる取組みの推進と県内への普及

（３）グローバルな視野を広げる学習等の推進

○　多様な文化に対する理解の推進

○　国際的な視野を広げる学習の充実　　・・・　（英語キャンプ）

（４）郷土愛を育む教育の推進　　→　小中高大連携推進プログラム（鶴岡モデル）
外国語フォローアップ事業

○　グローバル化が進展する中、県民一人ひとりが自らの「心の拠りどころ」を持って生きることができるよう、郷土の自然や歴史、伝統文化、先人の業績などに対する理解を深めることは、山形の未来をひらく人づくりを進めるうえで極めて重要なことです。

（５）教員の英語力の向上　　→　英語指導力向上セミナー

○　教員の英語指導力及び英語力の向上

資料　２－２

山形県英語教育改善プラン

教　育　庁

－国の目指す方向性－

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」　（平成25年12月13日　文部科学省）

＜2020年まで＞

【小】（高学年）コミュニケーション能力の素地を養う。
活動型・週１コマ程度、学級担任を中心に指導。
【中】コミュニケーション能力の基礎を養う。４技能の総合的育成。
【高】コミュニケーション能力を養う。授業は英語で行うことを基本。

（中学校卒業段階で英検３級程度、高校卒業段階で英検準２級～２級程度）

＜2020年以降＞

（中学年）活動型・週１～２コマ程度、学級担任を中心に指導。
（高学年）教科型・週３コマ程度、英語指導力を備えた学級担任、専科教員の活用
授業を英語で行うことを基本とし、身近な事柄を重視した言語活動
授業を英語で行うとともに、発表、討論、交渉など高度化した言語活動
→小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上
（中学校卒業段階で英検３級～準２級程度、高校卒業段階で英検２級～準１級程度）

＜本県が目指す英語教育の目標＞
自分を表現！郷土を発信！「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成

＜目指す児童・生徒・教師像＞

【児童・生徒】

（2020年まで）	（2030年まで）
（小）身近な話題等について、相手と英語で意欲的に会話することができる。	自分の興味あることについて、他者と英語で意欲的に会話することができる。
（中）自分の地域等について、他者にまとまりのある英語で伝えることができる。	自分の地域等について、他者に英語で的確に発信することができる。
（高）他者に対するおもてなしを、英語で行うことができる。	討論やディベートを、他者と英語で論理的に行うことができる。

【教員】

（2020年まで）	（2030年まで）
（小）教室英語を多用して、音声を重視した協同的な楽しい授業を行うことができる。	４技能を統合して身近なことについて表現するための教材開発や授業を行うことができる。
（中高）卒業・学年終了までに身に付けさせたい力を明確に持ち、４技能を統合した授業を計画的に行うことができる。	英語を使って、地域や世界で活躍できる人材育成のため、探究型・表現型の授業を系統的に行うことができる。

【重点施策１：小学校外国語活動　活性化】
「外国語活動フォローアップ事業」の展開

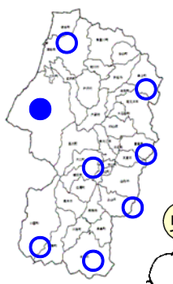
＜ポイント＞英語を指導できる日本人の外部人材を講師招聘

＜メリット＞教員の指導力向上と児童の英語力向上

＜具体的な取組＞

県内７地区
1中学校区内
３小学校に配置

郷土資料の
活用
（観光案内等）



外部人材　担　任

楽しく学べる英語の授業

児　童

小　重点　児童が体験的に楽しく学ぶことができる
コミュニケーション活動の工夫

○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動の充実
○“Hi, friends!”を活用した年間指導計画の工夫、
外部人材の活用

素地づくり

つなぐ

中　重点　生徒が英語を十分に使うことができる
言語活動の充実

○小学校外国語活動を踏まえた授業の導入・展開の工夫
○「読む」「書く」活動を含めた体験的なコミュニケーション活動の充実
○CAN-DOリストを活用した生徒の英語力定着、郷土資料の収集・活用

基礎づくり

つなぐ

高　重点　生徒が自信を持って英語で交流することができる指導の充実

○コミュニケーション活動を重視した授業モデルの開発・普及、ALT等の積極的活用
○CAN-DOリストを活用した生徒の英語力分析と授業改善
○ディベート県大会の開催

実践力の育成

【重点施策２：小中高大連携】
地域を限定した小中高大連携プログラム事業（鶴岡モデル）

＜ポイント＞授業を中核とした小中高の連携強化

＜メリット＞モデル校における次期学習指導要領改訂を見越した先駆的な取組

＜具体的な取組＞

①10年間の「**系統性**」ある指導計画と評価

〔小（３～６年）　＋　中（１～３年）〕＋　高（１～３年）　計10年

②郷土を発信する「**郷土学習**」（観光案内等）

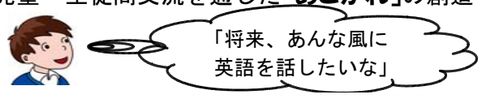
【小学校】
○教科・総合的な学習を関連づけた英語観光紹介

【中学校】
○教科書題材を発展させた英語地域紹介

【高等学校】
○郷土資料を踏まえた英語観光ガイド作成

※小・中・高合同のイングリッシュ・キャンプを実施

③児童・生徒間交流を通した「**あこがれ**」の創造



【基本施策１】　＜英語教員の英語力・指導力向上＞

＜ポイント＞研修による英語教員の英語力と指導力の強化

＜具体的な取組＞
○英語指導力向上セミナー：4年間で約850名受講
・英語教育推進リーダーによる演習等（小350中280特40高180）
・英検受検料助成による準１級以上取得の奨励

【基本施策２】＜中高教員相互派遣研修の実施＞

＜ポイント＞中高連携での研究授業・研究協議による授業改善

＜具体的な取組＞
○中高教員合同での授業研究（８地区：中・高各１校での授業研究会）
・中高相互の授業内容理解と中高をとおした教科指導の在り方の研究
○「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標に沿った指導と評価の工夫・改善

【基本施策３】＜高校における山形「スピーク・アウト」推進事業等の展開＞

＜ポイント＞生徒の英語コミュニケーション能力の育成

＜具体的な取組＞
①山形「スピーク・アウト」の推進
②チャレンジ英検、英語集中合宿
③ディベートの推進

小中高連携プログラム事業　『世界に羽ばたけ！出羽さんさんプロジェクト』

資料　２－３

山形県教育庁
H27－H29

○目　　的 ：小中高大の連携を強化し、グローバル化に対応した英語力を養成
○事業概要 ：◇　鶴岡地区内の小４校・中１校・高２校をモデル校とし、次期学習指導要領を見越した先駆的な取組みを行い、小（４年）＋中（３年）＋高（３年）の系統性ある指導計画と評価の実践
◇　山形大学農学部、慶応義塾大学先端生命科学研究所がある「知の最先端」である鶴岡市をモデル地区に指定

☞ 生徒が自信を持って英語で交流！
☞ 郷土の魅力を英語で発信！

→ 留学を希望する児童・生徒の増加

○国の事業　英語教育強化地域拠点事業（H27～H29 3年間）　＋　地域における青少年の国際交流推進事業（Ｈ２８ 新規事業）

平成27年度 ～ 29年度

次期学習指導要領を見越した先進的な取組み

小3・4	外国語活動の実施
小5・6	教科「英語」（外国語活動）の実施（週に1回）＋モジュール授業（15分）の実施
中学	英語（週4時間）＋「特設英語」（パワーアップ・イングリシュ）の実施
高校	＜鶴岡南＞ ・英語でのプレゼンテーション ・台湾の高校との交流 ・「鶴南ゼミ」での庄内論語英訳、小学校外国語活動の研究と実践
	＜鶴岡中央＞ ・学校設定科目「スピーク・アウト」の実施 ・普通科と総合学科の英語での連携 ・修学旅行で「鶴岡」を紹介

人的配置

- 日本人非常勤講師の配置
- 常勤講師の配置
- 外国人常勤講師の配置
- ALTの常駐

教員間の連携（交流）・研究

① 計10年間の「系統性」ある指導計画と評価

小中高の研究推進委員による打合せ会議 ＋ 授業の参観

目指す生徒像の共有 ＋ 10年間を見通した目標の設定

教材開発・研究

郷土紹介カードの作成

郷土紹介文の作成

② 「郷土学習」により郷土のよさを発見、英語で発信

・庄内論語の英訳
・外国人向け庄内観光ツアーのプラニング
・修学旅行先での郷土紹介

児童・生徒間の連携（交流）

③「あこがれ」の創造

夏

鶴岡イングリッシュ サマーキャンプ 2015.8.11～13 実施

小学生　18名
中学生　 8名
高校生　15名
計41名の参加（H27年度）

ねらい
3日間の合宿でネイティブスピーカー（7名）や異年齢の児童生徒と英語で交流
鶴岡の名所・旧跡を紹介
↓
英語によるコミュニケーション能力を向上
郷土の魅力を再発見

主な内容
小中高生合同のグループで鶴岡公園周辺の名所・旧跡を英語でツアー・ガイド

成果指標（GTECの受験）
鶴岡南高校　1学年　200名
鶴岡中央高校　1学年　267名
計467名が7月に受験

小中高成果発表会（1月末）

小学校の取組み紹介（映像）
中学校での自己表現活動の紹介（映像）
高校2校の代表生徒による発表
・鶴南ゼミの研究成果発表
（庄内論語、小学校外国語活動について）
・シルクガールズ・ファッションショー

平成28年度新規

姉妹都市交流の活性化

地域における青少年の国際交流等推進事業

冬

鶴岡イングリッシュ ウィンターキャンプ

アメリカ、台湾等から中高生を計20名程度招聘し、鶴岡地区の中高生と合同で合宿

ねらい
－ 他国の同世代の青少年と交流することにより、国際化への意識を向上
－ 外国人と英語で実際コミュニケーションを図ることで、英語学習へのモチベーションを向上
－故郷の魅力を世界へ発信することで、地元の良さを再発見

雪　食

主な内容
－最上川舟下り（最上川舟唄を英語と中国語で披露）：おしんのロケ地
－羽黒山五重塔、祭殿の紹介
－斎館での精進料理の体験・説明
－湯殿山スキー場でのスキー体験

小学生を含むサマーキャンプのメンバーが鶴岡公園周辺の名所・旧跡を英語でツアー・ガイド（バージョン・アップ）

学校教育と地域活動の相乗効果
学校における英語教育と関連させた質の高い学習機会を学校外で提供することにより、児童生徒の英語学習への意欲向上、主体性・積極性、異文化理解の精神を養い様々な分野で活躍できる人材を育成

夏のキャンプ経験を生かし、真の国際交流に挑戦！

資料　２－４

教　　育　　庁

平成27年度「英語教育実施状況調査」の結果について

１　概　要

※平成２７年１２月１日を基準日として、全国全ての小・中・高等学校を対象に実施。

＜生徒の英語力＞　（　　）内は全国。　２６年度の数値は県別の公表なし。

	中学校	高等学校
26 年度	３４．７％（３４．６％）	３３．９％（３１．９％）
27 年度	２９．４％（３６．６％）	３８．１％（３４．３％）
29 年度目標	５０％	５０％

※中学校：３年生のうち、英検３級以上の英語力を有すると思われる生徒の割合

※高　校：３年生のうち、英検準２級以上の英語力を有すると思われる生徒の割合

＜教員の英語力＞　（　　）内は全国。

	中学校	高等学校
26 年度	２０．０％（２８．８％）	４３．６％（５５．４％）
27 年度	１９．６％（３０．２％）	４７．２％（５７．３％）
29 年度目標	５０％	７５％

※英語担当教員のうち、英検準１級以上又は TOEFL PBT５５０点以上、TOEFL CBT２１３点以上、TOEFL iBT８０点以上、TOEIC７３０点以上等を取得している教員の割合。

＜ＣＡＮ－ＤＯリストによる学習到達目標の設定状況＞　（　　）内は全国。

	中学校	高等学校
２６年度	７．８％（３１．２％）	２１．０％（５８．３％）
２７年度	２２．０％（５１．１％）	４５．８％（６９．６％）
29 年度目標	１００％	１００％

※ＣＡＮ－ＤＯリスト：「言語を用いて何ができるか」という観点に基づいて、児童・生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を、4 技能別で「～することができる」という形で設定し、リスト化したもの。

２　今後の対応

（１）生徒の英語力向上に関わるもの

○ チャレンジ英検等を活用した、外部検定試験受験の奨励

○ 英語の使用場面を意識し、児童生徒の英語での表現を促す英語授業の推進

○ 鶴岡市を拠点に実施している「小中高大連携プログラム事業」成果の県内への普及

（２）教員の指導力向上に関わるもの

○各校でのＣＡＮ－ＤＯリスト作成による生徒に身に付けさせる英語力の明確化

○ TOEIC 団体受験の機会を設けるなど、教員が外部検定試験を受けやすい環境の整備・拡充

○「中高相互派遣研修」の実施による中高連携での授業改善の推進